

脱サラで軟弱野菜に参入！



プロフィール

- 出身地: 東京都
- 就農時期: 平成15年4月
- 就農前の職業等
大学を卒業後、東京都内の大手建設会社に事務職として就職誌、10年間勤務。
- 家族構成: 妻、子供(長男、長女)、両親

1. 就農の動機

前職で、山形県朝日村で建設工事の騒音対策について、地域の農家と話し合いを重ねるうちに、農業が身近になり農業に対するイメージが具体化し、自分でやってみよう。と思うようになった。

2. 就農準備 ～しっかりと目標をたて、周囲の人達に伝えること

①地域決定理由

転勤で仙台勤務になり、妻の実家が宮城県であったこともあり、宮城県での就農を決めた。

②研修

親戚から仙台市内のスーパーで産直をしている野菜農家を聞き、自分から直接研修の受入をお願いし、まず5ヶ月間の自主研修を行った。

その後、就農支援制度を利用するため県の新規就農者の認定を受け、仙台市の農業法人で1年、自主研修をした農家でさらに1年間研修を重ねた。

③農地・住宅 ～就農8年目で震災発生！全滅・再び就農する

当初は、仙台市内に農地を求めたが、なかなか見つからず研修2年目の研修先と取引のある種苗会社から遊休農地50aとパイプハウスを借り受けることができ、岩沼に引っ越した。その後80aまで拡大した。

営農開始まで退職金等1500万円を準備し、初期投資に350万円と宅地の購入に充てた。研修期間中は、就農支援資金を活用した。

就農にあたり東京に住んでいた両親も呼ぶことになり、家の建設資金は、親が負担してくれた。生活環境が変化することで、両親には 苦勞をかけたと思っている。

就農して、8年目の平成23年3月東日本大地震が発生。従来の農地は、営農不能となり、岩沼市に新たな土地を取得し、二度目の新規就農となった。



人生の軌跡

準備・決意	研修	就農 (平成15年)	転機	再就農 (平成25年)	現在 (平成28年)
30～32歳 転勤で仙台へ。 情報収集、就農相談	33～34歳 仙台市内で農家研修。	35歳 岩沼市で、就農。両親も移住。	43歳 東日本大震災発生。ハウス・農地全滅。	45歳 名取市、岩沼市新たに農地を借りて営農スタート。	48歳 岩沼市に農地を集約し、生産を軌道に乗せる。

3. 現在の経営概要と特徴

①主な作物と栽培面積

露地畑 110a
レタス、キャベツ、カブ
カボチャ ほか60品目

施設野菜 1188㎡
大根葉の周年栽培

②主な保有施設・機械

パイプハウス 9棟 1188㎡
トラクター 1台
管理機 1台
耕耘機 1台
軽トラック 1台

4. 特徴

①パイプハウスによる軟弱野菜の周年栽培

ダイコン葉(年7作)を中心に生産。

当初は、とまと栽培希望であったが、研修農家のアドバイスで軟弱野菜に決定した。

②露地野菜は、仲卸を通した産直や東京の友人を中心とした宅配(70戸)を前提に、少量多品目栽培に取り組んでいる。

③就農当時から、仲卸会社(2社)に、直接販売している。研修中に知り合うことができ、現在もメイン出荷先になっている。



5. 就農しての感想

毎日出荷の体制をとっているので、お客様(仲卸会社)との信頼関係のため周年で野菜を切らさずに栽培体系を整えるまでは、胃が痛くなるほど苦労した。この信頼関係が、震災後も、再開を待っていてくれることにつながり、お客様に大変感謝している。

・新規就農希望者へ一言

あきらめず、やり抜く気持ちが大切です！

栽培も販売も簡単ではない。

どんな時も、目標と課題を明確にし「どうすれば目標達成するのか」と創意工夫が必要です。

年間の主な作業スケジュール

月	作業
1月	軟弱野菜(年7作)
2月	春作(露地)
3月	播種・育苗・定植
4月	
5月	
6月	
7月	
8月	秋作(露地)
9月	播種・育苗・定植
10月	
11月	
12月	